

提案内容について

市長への手紙「将来の栗東市のまちづくり」提案があった意見

・安全・安心なまちづくりに関すること

地域主体のボトムアップ型防災活動の推進

通学路や生活道路の安全確保のための組織的取組の推進

栗東駅前の環境整備（老朽化した道路ブロック、消えた街灯、草木の手入れ）

・公共施設等に関すること

旧学校給食共同調理場を、福祉センター機能を備えた中央公民館の代替施設として活用

公園に子どもから大人まで楽しめる遊具の設置及び適切な管理

小学校増設に伴うグラウンドの確保

学童保育の充実（増築などの施設面、処遇改善）

保育園などの子育て支援施設の充実

児童館の開館日の増加

プロでも通用できるスポーツ施設の整備

火葬場の建設

・公共交通、観光客誘致に関すること

くりちゃんバスの増便

びわ湖畔から金勝までモノレール

観光客誘致（忍者館の設置、金勝山に花園を（梅花園、しゃくなげ、桜、桃など）

・農業に関すること

農家が農作物の種子を保存管理する条例制定を

年金生活者の憩いの場であった貸し農園を継続してほしい

・福祉、教育に関すること

福祉医療費助成制度の年齢引き上げ（高校卒業まで）、学費の無償化

子どもたちの学力向上

障がい者の医療費負担軽減、JR運賃の割引、精神障害者が安心して住めるまちづくり

ヘルプマークへの理解促進

福祉のまちづくりの一環として、身体障がい者、知的障がい者と同様に精神障がい者も全科医療費を無料にしてほしい。

中学校と高校の入学式を別の日にしてほしい。

・その他

農地を宅地化し、人口を増やす

都市計画マスタープランで実現できなかったことを分析して年次計画を策定してほしい。生活道路の整備、公園、緑の整備、親水環境の整備、自然保護をまちづくり懇談会でも要望している。

慣れない生活の中で、栗東市職員に親切にもらった

オムツが必要な子どもを抱えている世帯には、ごみ袋の無償配布を

狸など野生生物の保護。(車の通りが多いところなどに徐行の看板など)

龍谷大学社会学部 まちづくり論受講者より提案があった意見

観光客等の誘致に関すること

- ・ 栗東市にたくさんの人に魅力を感じてもらい、住みたいと感じてもらえるよう日帰りバスツアーを開催し、観光客を呼び込んで観光地化し、地域経済を動かす。
- ・ くりちゃんのコスプレで市民マラソン大会を開催する。また、給水ブースではこんにゃく、イチジクなどの栗東市の特産品を提供する。
- ・ 飲食店に味噌やこんにゃくなど栗東の特産品を使用したメニューを提供してもらい、バルスタイルで定期的に行う。ポイント制度を導入し、新規顧客の獲得、リピーターの確保を図る。
- ・ 夜は静かで暗く近寄りやすい手原の稲荷公園にある機関車（SL）をライトアップして、イルミネーションを行う。まちに明るい印象を与えることができ、手原駅周辺の認知度向上と周辺施設や飲食店への集客を図る。
- ・ 栗東トレーニング・センターを活用し、まちの知名度を上げ観光客を増やすため、栗東市にこだわった競馬系アイドルを結成し、イベント等を盛り上げる。
- ・ ファミリー層をターゲットにグルメフェスやライブフェス、アルコールフェスなどを継続的に開催し、流入人口の増加を図る。
- ・ 週末や休日に音楽やスポーツといった集客を目的とした屋外イベントを開催する。

定住対策に関すること

- ・ 栗東市からの流出者を減らすため、まちの良いところをPRできる場の提供をする。SNSを有効活用し、インスタ映えな場所の探索、くりちゃんラインスタンプの作成など行う。
- ・ 古民家や町屋を利用した「町屋カフェ」を開設し、インスタ映えを意識したメニュー開発、健康志向な料理の開発を行うとともに、憩いの場として提供する。

子育てに関すること

- ・ 子育て世代に長く住んでもらうため、コミュニティセンターや体育館で科学実験や自然教室等の子どもの好奇心を満たし楽しめる場を提供する。
- ・ 子連れの家族を対象にスタンプラリーを行い、栗東市の魅力度・知名度を上げるためラリーポイントでは学生がその場所の説明を行う。多くの方に来てもらい、滞在時間を長くすることで経済効果も期待できる。
- ・ 人手が不足している児童館を活用して親が子育て講座を受講している間、学生が子どもと交流をし、三者が交流する時間をもつことで親子の居場所を提供する。

特産品に関すること

- ・ 栗東市の特産品であるこんにゃくやあられイチジクを使った料理教室を開催し、ランチメニューにする。障がい者支援施設を会場にし、障がい者の方も一緒に活動する。こんにゃくパンやこんにゃくピザといった珍しい特産品をつくり知名度を上げる。

- ・古民家や町家を活用して、地域住民が野菜などの地元食材を持ち寄り、カレー作りを通じて結びつきを感じてもらい定住者を増やす。

その他

- ・フィールドワークや資料による地域情報を通じて、それぞれの分野を専攻している学生が地域調査・地域分析を行い、地域住民等を対象にしたワークショップを開催する。